中国・北京春節（旧正月）2007 年　　チャンデンの廟会（縁日）・その 2・天橋芸人

このチャンデンのパレードは老北京（旧い北京）の庶民の風情を彷彿させていて面白い。もともとこの界隈は北京の下町（胡同・フートン）の一つである、先に見た通り、パレードしている新華南街は広いがその奥に入れば古い石造りの長屋が並んでいる。北京五輪で可なり壊され、再開発されてしまったが、それでもまだ下町風情が残されている。

老北京を紹介している物を見ると、紫禁城（故宮）の南にある天壇（天を崇高なものとしていた）に明、清の皇帝が正月に五穀豊穣を祈って参拝していた。その途中に湿地帯があって、皇帝が通りやすいように橋を架け、それを天橋と名づけた。いつしかその周辺の広場が庶民の娯楽場になり、大道芸が催され、芝居小屋や演芸場が集まり、芸人が住み着くようになり、天橋芸人と呼ばれて親しまれているとある。

その役者や芸人たちのパレードである。開発で目まぐるしく変わる北京の街である。ノスタルジックなパレードは年代層には人気かもしれないし、我々旅行者には旧い北京の庶民生活がうかがえて楽しい。

（写真上三枚）京劇役者のパレード。後ろに見える建物は瑠璃庁（古書籍、書画骨董品売り場）の入り口。

（写真左二枚）昔のもの売りの真似。

この付近に湖広会館という京劇の芝居小屋がある。そこでは、舞台の間近で京劇の名場面が見られ、チップを出して舞台の上で京劇役者と記念写真を撮ってもらうこともできる。建物は現代風だが、中身はいたって親しみのある芝居であって、観客との距離も近い。

また、天橋会館という演芸場もある。ここでは京劇のさわりもあるが老北京の物売りの物まねや掛け合い。手品や曲芸。踊りに道化のお笑いありの演芸舘になっている。ひまわりや西瓜の種をかじり、お茶を飲み

ながらの見物は言葉がわからなくとも楽しめる。一時 JTB のツアーコースに入っていたので、訪れた人もいるかもしれないが、この二つとも、北京を知る上で見るに値する。

（写真上二枚）踊り子の行列と人形の被り物をした道化役。

（写真右）パレードしていた人たち。

この界隈に住んでいる人たちのパレードは短く、距離も長くないので、すぐ終了してしまう。群集に混じってパレードを行きすごしてから、大通り裏の胡同に入り込んで写真を撮っていたら、パレードに参加していた人たちが戻ってきて、三々五々と路地に帰っていった。それを見ると年配者が多い。昔ほど芸人の数も多くないのかもしれない。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

＜両側に並んでいた露店の光景＞

家族ずれで見物に来ているので、子供相手の風船や縫ぐるみ人形と玩具の店、それに食べ物屋がにぎわっている。
餅菓子やマトンや鳥の串焼きに駄菓子類と日本では見たことのない食材が並んでいる。

その中で蠍のから揚げを食べてみた。えびみたいな食感だが、からばかりで、身が殆どない。あまり美味いものではない。

様々な串を口にほうばりながら、老北京の風物詩を見るのは、また良しである。